

### 第3回こどもはぐくみ推進本部会議会議録（要旨）

開催日時	令和5年6月1日（木）15:15～16:55
場所	真庭市役所 本庁舎 3階応接室
出席者	本部長（太田市長）、副本部長（伊藤副市長）、（三ツ教育長）、危機管理監（今石）、総合政策部長（木村）、総務部長（金谷）、生活環境部長（池田）、健康福祉部長（樋口）、産業観光部長（石井）、建設部長（頭山）、会計管理者（今石）、教育次長（武村）、消防長（代理：川上）、湯原温泉病院事務部長（中谷）、議会事務局（児玉）、蒜山振興局長（行安）、北房振興局長（大塚）、落合振興局長（河本）、勝山振興局長（代理：後安）、美甘振興局長（安藤）、湯原振興局長（河島）
事務局等	子育て支援課（行田、広岡、栢野）
傍聴者	
議事内容	<p>①こども家庭庁の動向</p> <p>②こども・子育て施策（こどもはぐくみ応援プロジェクト）の推進について</p> <p>③こどもはぐくみ応援プロジェクト64施策の事業実施について</p> <p>④子育て支援関係アンケート結果について</p> <p>⑤こどもはぐくみ政策推進マトリックス会議の報告</p> <p>⑥地域全体で支えるしくみづくりにどうやって取り組むかのアイデア</p>
冒頭の事項	<p><b>本部長（太田市長）</b>：3回目の本部会議開催となる。子育て支援施策は完全な施策ではない、試行錯誤しながら施策を進める中で改善をしてもらいたい。また、子育て支援関連アンケートの結果も共通認識にすること。国の動きも頭に入れた上でやっていきたい。会議の最後にはこれからどうやっていくかについても意見を出して欲しい。今の日本は子どもを産み育てていこうという機運が薄らいでいて、子どもが自分の存在を認め楽しく生きていこうという雰囲気も弱い。子どもが安心して暮らせる日本社会を変えていきたい。web参加の人たちも積極的に発言をお願いします。</p>
①こども家庭庁の動向	<p><b>こどもはぐくみ専門官</b>：</p> <p>国は社会全体で子どもの成長を後押しするために、今年度4月1日にこども家庭庁を創設。機構の組織体制は総理大臣直轄の機関として、内閣府の外局に位置づけられ、長官官房と成育局、支援局が置かれた。内部部局は350名の体制がとられ職員も増員。幼稚園や義務教育などの教育分野は文部科学省が引き続き担当し、いじめなどの重大事項についてはこども家庭庁と連携をしながら進める。</p> <p>あわせて子どもの権利の保障を明記したこども基本法が施行。日本国憲法や国連の子どもの権利条約に基づいて、全ての子どもが幸せに暮らせる社会を目指すための法律。子どもの人権や利益を尊重し、差別や虐待を防止し、教育や保護などの施策を推進することを定めており、こども基本法の成立によりはつきりと子どもの権利が法律によって守られることになる。政策予算について、今年度のこども家庭庁の予算は約4兆8,000億円から倍増で検討。児童手当の拡充等に約3兆円余りの規模</p>

の追加予算を見込みながら、今後 3 年間の重点施策とこども・子育て支援加速化プランや子ども予算倍増の大枠を示す見通し。

**本部長（太田市長）：**

国の動向を見ながら、財源で取り込めるものは取り込んでください。それから、9 月に向けて事業化できるものは事業化することも指示してください。事業の財源は財政課で指示を出しているか。

**総務部長：**

財源の構成については、それぞれの補正予算のところでも、このこども家庭庁の使えるものについては更正をかけるということで、査定の段階でも指示している。今後も 9 月に向けて新しく出たものも含めて確認し、現在単独でやっている事業を振り替えることも含めて、財政の方で指示をしている。

②こども・子育て施策（こどもはぐくみ応援プロジェクト）の推進について

**こどもはぐくみ専門官：**

こども子育て施策の推進については、地域全体で支える仕組みづくり、タイムリーな情報発信、保育士の確保、こどもはぐくみ応援プロジェクトの推進と市役所全体の体制強化の 5 本柱で実施していく。本年度は深化、展開期。来年以降ももう少し展開、発展させる時期につないでいきたい。

地域全体で支える仕組みづくりについて、市内の企業や様々な団体等との連携をしながら子育てを地域全体で支える機運の醸成を重点的に考えていきたい。アンケート等の調査分析結果等を公表し市民の方にも情報発信をしていく。市長にもこども園への訪問や学生、市内企業関係者との車座トーク等を開催していく。

タイムリーな情報発信については、今も真庭市には色々な施策があり、保護者の方からもいろんな施策があつてありがたいという意見をいただいている。一方で情報の検索等がなかなかしづらいというような意見もある。真庭市のホームページのこども ICT ネットの体系化について、秘書広報課とも協議をし使いやすいものにしていく。

はぐくみ応援プロジェクトの推進について、64 施策の進捗管理をするシートを作成している。全庁が連携、調整をしながら着実に事業を進めていくために作成しているもの。部局経営目標や所信表明にも記載を入れながら整合性を図るようにしている。産業政策課で取り組む分析調査、岡山県が実施する子育て支援に関する実態調査などのデータをエビデンスとして政策の検討に活用していきたい。

市役所全体の体制強化について、5 月に 1 回目のマトリックス会議を開催し、本日 6 月 1 日が第 3 回こどもはぐくみ推進本部会議。政策マトリックス会議の第 2 回目を 7 月、第 3 回目を 9 月ぐらいに開催し、実施可能な事業や既存の事業のブラッシュアップの検討も考えていく。マトリックス会議の役割は施策の起案、企画立案、総合調整、事業課相互間の連絡調整をする。構成員は関係課の課長で、岡山県子ども未来課の方もオブザーバーで参加していただいている。

**本部長（太田市長）：**保育士さん不足で、今年度途中からこのままでいけば、対応できない待機児童が出るか、どんな状況か。

**子育て支援課長：**

先般、文教厚生事委員会でも報告し、4 月 1 日時点で、2 名発生している。国の基準でいう待機児童にならない方も、数名出ており、見通しとしてゼロになるという

ことは厳しいかと思っている。現在、任期付職員を募集中。思うように申し込み者が見つからず、年度途中であってもできるだけ職員確保できるように努力しているが非常に確保は難しい状況。

**健康福祉部長：**

タイミングというか、やはり時期時期で募集をかけるが、総務部的には通年募集というような形を取っていくことは検討はできないか。

**総務部長：**

特にいつという風に決めているわけではない。不足の状況によって募集をかけるというのは当然だと思うので、そこは総務課の方と協議してもらいたい。

**本部長（太田市長）：**奨学金などは今検討中か。

**健康福祉部長：**はい、その奨学金のことも含めながら、真庭で実際に保育士として働いてくださる方々に対しての一定の就労に対するインセンティブ等検討を始めている。保育士に限らず、エッセンシャルワーカーの確保ってところは1つの課題としてその点も含めて進めたい。

③こどもはぐくみ応援プロジェクト6-4 施策の事業実施について

**こどもはぐくみ専門官：**

64の施策について、各本部員の方から、特に新規事業、また拡充事業等でここで共有しておいた方がよい事業について説明をしてください。

**健康福祉部長：**

・まにわパパママクラスの開設・・・新規事業で開始。先週第1回を実施し、この1クール3回を3クール実施する。お父さん、お母さん含め実際の子育てに関する、妊娠やパートナーと出産、育児に必要な知識を学ぶということで開始。先週の実績としては、5名参加をいただいております、そのうち1組が夫婦でご参加をいただいております。3クールということで、第1回目が月曜日の設定になっているが2回目、3回目は全て日曜日に設定している。

・発達発育支援センター・・・事業実績については理事会の中でも説明済み。体制を充実させたくらうで2年目をスタート。小学校、中学校含めてこういう窓口があるということをしてPRをし、できるだけ寄り添った支援ができるということを進めていきたい。

・医療的ケア児の訪問看護レスパイト事業・・・新規事業。医療保険の適用を超える訪問看護療養費を30分あたり3500円を上限で補助するもので、月4時間、年間48時間を上限とする。昨日の総理大臣の記者会見にも3兆円台半ばということの中でも話が出ているが、医療的ケア児や障害児の事業について上積みというような話も出ている。真庭市としてはこの部分を先行しながらやってきているので、その点も含めて充実していければ。

・はぐくみサポーター派遣事業・・・拡充の事業。従来やっていたものから実際に使える時間、回数を増やした。利用も進んでいるが、逆にこのサポーターをしてくださる方々を確保していくということも非常に重要。サポーターの養成についても同時進行で進めていきたい。

・園児のおむつリサイクル事業・・・5月からスタート。従来おむつは持ち帰って、保護者負担で廃棄していただいていたが、今後園で使った物については園で回収して廃棄する。これは社会的にも話が出ており、真庭市としても5月から開始した。園の職員

の負担の軽減、個別に園児ごとに管理をしなければならないところの軽減と、当然持ち帰りをする保護者の負担軽減、衛生上の問題も含めて進めている。

・保育人材の確保促進事業、頑張る保育士の応援事業・・・保育人材の確保については、リクルート活動や給付制度を検討。頑張る保育士応援事業は、奨学金の返還金の部分に2分の1を上限12万円で補助を行う。こちらについては拡充をして、市内の民間園等も含めて、人材の確保を進める。

#### **生活環境部長：**

・こども医療費無償化・・・6月1日、本日から高校生世代の医療費の無償化が開始。4月7日時点で対象者、高校生世代が1107人。申請書提出済が1047人、残り60人ほどがまだ。再度お願いしたが来てないという状況。申請がまだの方が病院にかかった時には、医療費の受付の方に、無料になるんで申請をしてくださいと伝えてもらえるよう医療機関の方をお願いをしているところ。

#### **総合政策部長：**

・森の日普及推進事業・・・中和で試験的に実施。津黒いきものふれあいの里で自然保育を提供するというので、今年度すでに5月21日、1回実施をしています。6月、8月、10月に実施をする予定。

・山村留学モデル事業・・・都市部の子どもに来ていただく取り組み。短期、中期、長期という風に分けて事業を少しずつ進めていこうということで計画中。今年度は短期の部分を行う予定にしている。里山キャンプということで中和の方で行う予定。中期については一応募集をするが、ここは長期に向けた準備というところ。長期に向けた部分とすれば、地元の受け入れ体制も含めて、今年度検討を進めていこうということで話をおり、長期ということになると学校に通うという部分が出てくるため、教育委員会とも色々連携を取らないといけないという部分がある。長期の方は今年度は準備段階。

#### **産業観光部：**

・子育て世帯や市内企業の実態調査分析事業・・・医療費とか支出が多いところに対する負担感をすごい強く感じているところを、まず1点分析したい。子育て支援アンケートの結果も使いながら委託をし、サンプリング調査をしようと思っている。もうちょっと具体的に、世帯としての収入と子育て、それからほかのものに対する支出がどれくらいあるのかということ。例えば、お父さんお母さんいるんだけど、片方しか働いてない時に、働きたいけど働いてない人がもしいるんだとすれば、働きたい人を確保したいけど確保できない人のミスマッチはなぜ起きてるのかみたいなことを、県の調査事業の結果も使いながら、企業に対するサンプリング調査もさせていただいて、踏み込んだ調査をしたい。

#### **教育次長：**

・小中学校のICT化推進事業・・・新規事業。小中学校から家庭への通知文書類を、アプリを介したツールを作るということで、現在契約に向けて準備中。7、8月に学校で試験運用を行って、9月から本格的に稼働を目指している。

・学習交流センターの整備事業・・・蒜山校地に隣接した交流センターを作っていくという事業。現在地質調査や基本設計の準備中で進めている。

・子どもの居場所づくり事業・・・遊び場づくりのモデル事業を行っていきます。遊び場の

マップ作りやモデルプレーパークの開催を通じて、子どもの居場所を作るとともに、子どもの自主的な遊びを見守る視点を持った大人を増やすということで、大人の方の意識改革を意識した事業をしていきたい。

**建設部長：**

・ポケットパーク・・・詳細なことは言えないが候補地が3か所あり、個人的なところが有望視されているので、そこと具体的な協議に入りたいと思っている。素案をこれから練っていこうとしている。

・河川公園等・・・全て順調に今測量、県との協議など進めている。

**湯原振興局長：**

・夏休み、冬休みの期間中の子どもの居場所づくり・・・新規事業。わんぱく学校を二川地域づくりセンターで、地域の方が主体的に今検討してくださっている。

**本部長（太田市長）：**

今までのところでお互いに質問とか、何かありますか。勝山で、新規で病児保育の関係を始めたことは。

**子育て支援課長：**

・病児保育ひまわり（勝山病院実施施設）・・・病児保育について、開始はもうしております。3月31日から開始をしている。

**副本部長（伊藤副市長）：**

こういった形で整理したものを本部会議に出す目的として、1つはやはりこの64の事業を着実に進めていくということを確認する。それからもう1つは、具体の事業実施にあたってはしっかりと連携していただきたい。このはぐみプロジェクトにあげるこの64については、もし仮にニーズが高くて予算が足りないような状況にあれば、マトリックス会議とか本部会議まで上げてその補正予算の必要性についても市長にしっかりと確認をしていこう。

それは1つのルールとして確認してもらいたい。産業観光部でやっていただいている分析結果については、中間報告のような形でいいので適時報告をしてもらいたい。そういう客観性プラス、来年度の事業に向けては、実際にサービス受けてらっしゃる市民の皆さん方がどう感じてるかっていうのも非常に重要なので、これからマトリックス会議とか本部会議にしっかりとあげていただくということもお願いしたい。

**本部長（太田市長）：**

国の事業で、子どもの居場所の調査でしたかね、モデル事業は今どんな段階ですか。

**副本部長（三ツ教育長）：**

・三世代遊び場マップ・・・子ども、大人、それからおじいちゃんおばあちゃん世代も一緒になりながら遊びを調べて、一緒に遊びの場を作っていこうという地域学校共同活動を今やっている。その団体を母体にしなが、これから持続していく遊び場作りをしていこうと、地域と今相談しながら準備をしているところ。もう1つ、この64には直接関わらないけれども大事にしたいのが、先ほど冒頭の話にもありましたけども、子どもの権利条約。こども基本法、この理念に照らして既存に問題はないのかっていうのをもう一度きちんと問わなければならないと思う。園、学校、学童、それから放課後子ども教室な

どで、そこを大事にしていかないと、最初に市長がおっしゃった、子どもが安心して育つことができる社会作りっていうことを考えた時に、どうなのかという思いが非常に強い。

**健康福祉部長：**

今回どういう事業をやっていこうかという話は市長や副市長からも案をいただいたものですが、子育て、子どものことを考える日のようなものを市の中で設定しながら、そういうことを考える日を設けるということも考えている。市民全員がそういうことを考える機会を持つということ。

**④子育て支援関係アンケート結果について**

**こどもはぐくみ専門官：**

昨年 11 月に中学生以下の児童がいる世帯を対象にインターネットで行ったもので、729 名が回答。設問は回答者の属性、居住意思、子育て支援に関する 12 項目と、13 項目目は自由記載で市に求める支援についてご意見ご提案を伺った。真庭市に住み続けたいですかという（問 5）の質問について、住み続けたい、できれば住み続けたいという回答をされた方は合計 73.1%、わからない、そうは思わないという方が 26.9%。そうは思わないという方の理由は 48 人の方が回答。生活の利便性が悪い、子どもが遊べる公園や遊具が少ない、真庭市に選ばれる高校がないというような意見の回答があった。家計の負担の問いについて、一番多かったのは 30.9%の、おむつ、医療費等の生活必需品の費用。高校の進学にかかる通学費も 28%を占めた。真庭市の子育て環境政策等についてどう感じていますかという問いでは、満足している、どちらかと言えば満足していると回答された方が 51.3%、どちらかといえば満足していない、満足していないという方が、48.7%。子育て、教育環境では、高校の通学費用のこと等の意見や、保育園の入園、病院。金銭的な面では、高校、中学校以降お金がかかっていくので、その支援がないとの意見。医療費、保育のところでは、医療費の公費負担を高校生までにしてほしい。公園等の遊び場、遊ぶ場所や遊具が少ないというようなご意見と、小さい子が遊べるような施設がほしいとの意見もあった。支援としてあなたが利用してよかったというものについては、医療費助成が 77.2%で高い数値で良かったと言われている。保育料の減免、無償化についても、ありがたいというようなご意見があった。安心して育てる地域となるために市が重点的に取り組む必要があるものは、子どもたちが安心して遊べる場の整備が 43.9%。経済的支援は子育てに関する経済的な負担軽減という意見が 39.6%。経済的負担軽減として期待するものとしては、1 番大きかったのが医療費の無償化の拡大が 53.6%、高校の進学、通学が 50.5%だった。問 13 の自由記載については、中高生になると経済的に大変というところで、医療の無償化を望む意見があった。公園、遊び場についても雨の中でも安全に遊べる場が欲しいというような意見が出ている。医療費無償化というところにも、高校生の医療費無償化を求める声があった。

	<p><b>資料 6</b>はアンケート結果のまとめ。正規、パートの方で、604 人中 447 人の方が共働き。仕事の両立というところで苦勞しているという声や、子どもを預ける場所が少ない、一時保育や保育園以外の保育サービスが不十分との声も寄せられている。全国的に子どもを狙った犯罪が多発しているということも影響してか、安全で自由に遊べる場所が欲しいという意見が多くあった。経済的な支援については高校進学費用、出産、育児にお金がかかるという意見、医療費の無償化や給食費の軽減を求める意見もあった。待機児童の解消、一時保育のサービスの拡充が課題だが人材不足という現状がある。保育士が働きやすい環境の整備、就労、定着に向けた取組、また潜在保育士の掘り起こしなどが必要となる。よそにあって真庭市にはないものを求める意見もあった。地域間の格差を解消していくことも重要。子育てに関する育児ストレスについては、父親の育児参加のところが不十分であることもあり、母親だけで子育てを抱え込んでしまうということもある。父親が育児に積極的に関わられるような社会になるような制度や、理解を促進していくことが重要。</p> <p>今後の取り組みについて、本部会議、マトリクス会議等で施策の方を検討しており、保育士の拡充についても子育て支援課で検討しているところ。保育士の意見等も聞きながら、働きやすい環境の検討を行っていく。また、様々な実態調査の分析結果等を活用しながら、政策検討に活用していきたい。</p>
<p>⑤こどもはぐみ政策推進マトリクス会議の報告</p>	<p><b>こどもはぐみ専門官：</b></p> <p><b>資料 7</b>はこどもはぐみ政策推進マトリクス会議の報告。グループワークで、今日の 5 本の柱等でどういう取り組みが必要か検討をし、多くのグループがタイムリーな情報発信、地域全体で支える仕組みづくりについて検討。タイムリーな情報発信については、アプリ等を活用してプッシュ型の情報発信等も必要でないか、お母さん方の口コミということが重要ではないか、いろんな手段を使いながら何回も重ねて情報発信をしていく中で、市民の方に浸透していくのではないかなど意見が出た。</p>
<p>⑥地域全体で支えるしくみづくりにどうやって取り組むか</p>	<p>4 月の理事者会に出された人口について、<b>資料 8</b>を参照のこと。出生者数が令和 4 年度は 202 人（年と言うと 222 人）。減少幅が広い状況。地域ごとの人口の出生者数としては、北部が 19 名、落合が 76 名、久世が 65 名、勝山が 25 名、美甘が 2 名、湯原が 5 名、中和が 1 名、八束が 5 名、川上が 4 名という内訳。こういった数字も踏まえながら、地域で支える仕組みづくりをどうやって取り組むか、意見をいただきたい。</p> <p><b>産業観光部長：</b></p> <p>2 点ある。アンケート結果について、経済的負担と配偶者の就業形態の相関を分析した方がいいと思う。今回のアンケートと協力してやらせていただけないか。それから、地域別も含めてどういう施策をやってほしいかというところ、割合が大きいものにハイライトしてくと、左から、(5) 幼稚園、保育、子ども園での延長保育、(7) 保育、放課後児童クラブ、(9) 休日、祝日に子どもを預かってほしいという話、飛んで 14 ページ、14 番の、児童手当の毎月支給で、16 の遊べる環境、これが 1 番大きい。これも地域差なく、全部ほぼ同じ傾向で、22 に経済的負担軽減、これも大きい。親の働く時間とホッとする時間が欲しいという話と、子どもが嬉しい場所の話と、お金の話の 3 本の柱が課題としてみんな思っているところだと感じている。</p> <p><b>本部長（太田市長）：</b></p> <p>子どもの教育費について、高校のところでは本当に問題なのは、5 割しか真庭にとどまらない。工業は、真庭市に工業高校がないから仕方ない、スポーツで市外の高校に行くのも仕方ないかもしれない。50 パーセントが市外の高校に出してしまう魅力のなさ</p>

どうか、県教委に問題を提示していきましょう。

もう1つは医療の問題で特に小児科医の問題。今どんどん開業医がなくなって、医療資源がなくなっていった。県には責任がある。真庭市に、保健師さん含めて医療関係の行政権限は全くない。保育士さんの方は、県の協力もいるけども、これは本当にこちらが頑張らないといけない、市町村で頑張らないといけないことと県に本当に力を入れてやってもらわないといけないこと、そこを、市民の中にも、政治的にもはっきりさせるということが私は必要と思う。

#### **会計管理者：**

今は、子育て進行形の世帯の人からの色々な意見を聞いたりを当然していくこと。40代、50代、60代の子育てが一段落した人たちが、こうあったらよかったという視点も大事なのは。

#### **産業観光部長：**

地域コミュニティについて、商店街で開いたような場所を、NPOが遊び場、遊具だけ入れて、そこに子どもが集まってきて、子どもの声が戻ってきたみたいな話とか、佐賀の商店街でも同じような話があって、そこって基本ウォーカブルなんですよね、歩けるんです。そうすると、お母さんたちは安心して、お父さんも安心して連れてこれる。ウォーカブルになって、その道だけ車来ないようにすればいいだけなので、行政ができる話ですし、それだけで価値ができる。例えばすごいお金をかけないやり方であれば、空き地なんて山ほどあるじゃないですか。空き地がある道沿いをウォーカブルにして、そこに芝をはってコンテナを置いて、漫画を置くだけで人が来るようになったという事例もある。安心して環境づくりで簡単にできるものをやったらどうか。

#### **生活環境部長：**

保育園関係、遊びの関係で遊び場は家の前にたくさんあって、親が見てくれてた。新興住宅が増えて、新興住宅には公園がないからポケットパークが造ろうというような意見が多いように感じた。この子育て関連アンケートが、核家族か三世代同居の家族かでまた意見が変わってくるように思う。地域、コミュニティでは、新興住宅にコミュニティ自体がない。例えば民間、小規模保育を民間で募集したが資源がないのでできないということになる。無茶なことを言いますが、公設民営で建物を建てて、民間のNPOとか入ってもらうようなことを考えてみていいかもしれない。

#### **危機管理監：**

新興住宅に住んでますが、うちの団地は、個人情報のことがあるが皆さんの携帯番号（子どもの携帯も含め）を教えてください、緊急時には連絡がつく体勢を取っている。希薄にはなっている。

#### **落合振興局長：**

落合振興局にキッズ広場があるんですけども、それを眺めていると、新興住宅であるとか地縁のない方々、フリーな方々が楽しんでおられる感じがある。そういった地縁を好まない人も多いので、そういった意味でも今の子育て世代の方っていうのは地域に縛られない関係性っていうのを望んでいるように感じる。そういった形での公園があればいいのかなと感じている。

#### **健康福祉部長：**

まにこいんという仕組みを使う中で、子ども同伴で何かをすればポイントがつくとか、年配の方だと貯めたポイントを子どもたちのために寄付ができる仕組みとか、学校にポイントが寄付ができるとか、地域内で回っていく仕組みのようなものも考えていければ。

歩行者天国的なもので、終日じゃなくても日曜日だけでもそういうことができるとか、そうすれば少し賑わいができてマルシェのようなことができたりとか、そこに親子同伴でく

るなど人の流れが変わってくるという可能性もあるのでは。

**議会事務局長：**

今日の新聞にも少子化対策の予算のことが載っていた。その中で産後パパ育休制度の給付金の制度のことが載っていて、市役所の中の男性職員の育休もちょっとずつ増えている。まだ、取りやすい機運というのが少ないかなと思っている。まず市役所からそこを広げていき、市内の企業でも広がっていけば、地域全体で支えるってところの、全体の企業の醸成にも繋がっていくんでは。

**本部長（太田市長）：**

今、市内の民間企業は週1日休みのところの方が圧倒的に多いのでは。週2日になったら、地域が変わると思う。

**建設部長：**

週休2日になったら請負費を上げると言っているが企業はしない。それより出勤した方がいいという状況がある。

**産業観光部長：**

給与水準が低いので、週休2日にしたとしても、本業とは別にバイトしてる話を聞く。休みだけの問題ではなく、賃金の問題があると思う。

**総務部長：**

いろんな意見を聞いてみるという意味では、別の年代層とかこれから子どもを産もうという年代の人とかに、今回総務の政策形成研修の中で、子育て中の職員に話を聞くが、真庭市でこれから子どもを育てようとする人の意見を聞いてみてはどうか。

**本部長（太田市長）：**

20年、30年、50年先の真庭がどうなっているのか、またどういう風にしていくのかという観点で、政策議論をしていきましょう。決して、津山と競争するとかそういうことではないが、津山・鏡野への流出が多い。どういう政策を検討していけばいいのか考えておいてください。

**確認事項**

- 国の動向を注視しつつ、必要な事業については年度途中の補正も含め、予算計上及び補助金の充当等を行う。
- こども子育て施策の推進については、地域全体で支える仕組みづくり、タイムリーな情報発信、保育士の確保、こどもはぐみ応援プロジェクトの推進、市役所全体の体制強化の5本柱で実施していく。関係課長で構成されるマトリクス会議では、施策の起案、企画立案、総合調整、事業課の総合連絡調整を行い、会議の内容は本部会議にて報告する。
- 64事業の進捗状況を全体で共有。具体の事業実施にあたってはしっかりと部局間で連携して進めていく。仮にニーズが高くて予算が足りないような状況にあれば、マトリクス会議や本部会議まで上げてその補正予算の必要性についても確認をしていく。
- データ分析結果や実際にサービスを受けている市民の皆さん方の意見、ニーズ等は非常に重要。マトリクス会議、本部会議に取りあげ政策に反映していく。